

◎ 美術館情報

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの美術館等で、臨時休館やイベントの休止、展覧会の中止や開催期間の変更、および入館方法等が変更になっています。

状況が日々変動しているため、各施設の公式ホームページなどで最新の情報をご確認ください。

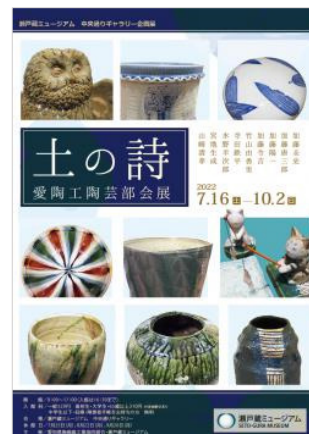
1. 瀬戸蔵ミュージアム【愛知・瀬戸】

(<http://seto-cul.jp/information/index.php?s=1657875551>)

7月16日(土)～10月2日(日)

企画展：「土の詩～愛陶工陶芸部会展～」

本展は、愛知県陶磁器工業協同組合(略称:愛陶工)陶芸部会会員9名による企画展です。織部や黄瀬戸などの釉薬が施された茶碗や皿、馬の目皿といった江戸・明治から続く瀬戸の代表的なやきものから、作家の創造力が活かされた作品まで幅広いジャンルの作品が並ぶ、伝統と新しい感覚の技を活かした、個性あふれる作品をお楽しみください。



2. 岐阜県現代陶芸美術館【岐阜・多治見】 (<https://www.cpm-gifu.jp/museum/events/event/event-5671>)

9月17日(土)～11月13日(日)

企画展：開館20周年記念「ロマンティック・プロGRESS」



岐阜県現代陶芸美術館は、本年開館20周年を迎えます。陶芸を取り巻く状況を俯瞰すると、とりわけこの20年間の変化は目まぐるしいものでした。本展では、当館が開館以来収集してきた近現代の作品と現在活躍する作家の作品を対峙させることで、新たな文脈から陶表現の過去・現在・未来を探ります。歴史は、予期せぬ事態の繰り返しにより紡がれてきました。つまり、さまざまな時間、地域、人、そして作品が複雑に絡み合い、思わぬ相互作用が生じることで進展してきたのです。それはまさに、ロマンティック・プロGRESSと言えるでしょう。元来、陶芸は産業や工業と分かちがたく結びついてきたため、19世紀後期において美術から切り離されるに至ります。これもまたロマンティック・プロGRESSであり、こうした事象こそが今日の陶芸をかたち作っているのです。過去と現在が照射し合うことで描かれる、新たな未来像をお楽しみください。

3. 国立工芸館【石川・金沢】

(<https://www.cpm-gifu.jp/museum/events/event/event-5671>)

9月16日(金)～12月4日(日)

企画展：所蔵作品展「ジャンルレス工芸展」

本展は、東京国立近代美術館が所蔵する国内外の優れた工芸・デザイン作品を中心に、あえて工芸と括らずに新しい視点でご紹介する展覧会です。器からオブジェまで形状はさまざまですが、鑑賞者はジャンルを気にすることなく、工芸素材とそれを活かす卓越した技術を用いた幅広い表現に触れることができるでしょう。

